

SIGN CONCEPT

マークの展開

オリーブの葉をくわえた鳩
(ノアの箱舟より)

個性の違う

各エリアを示すシンボル

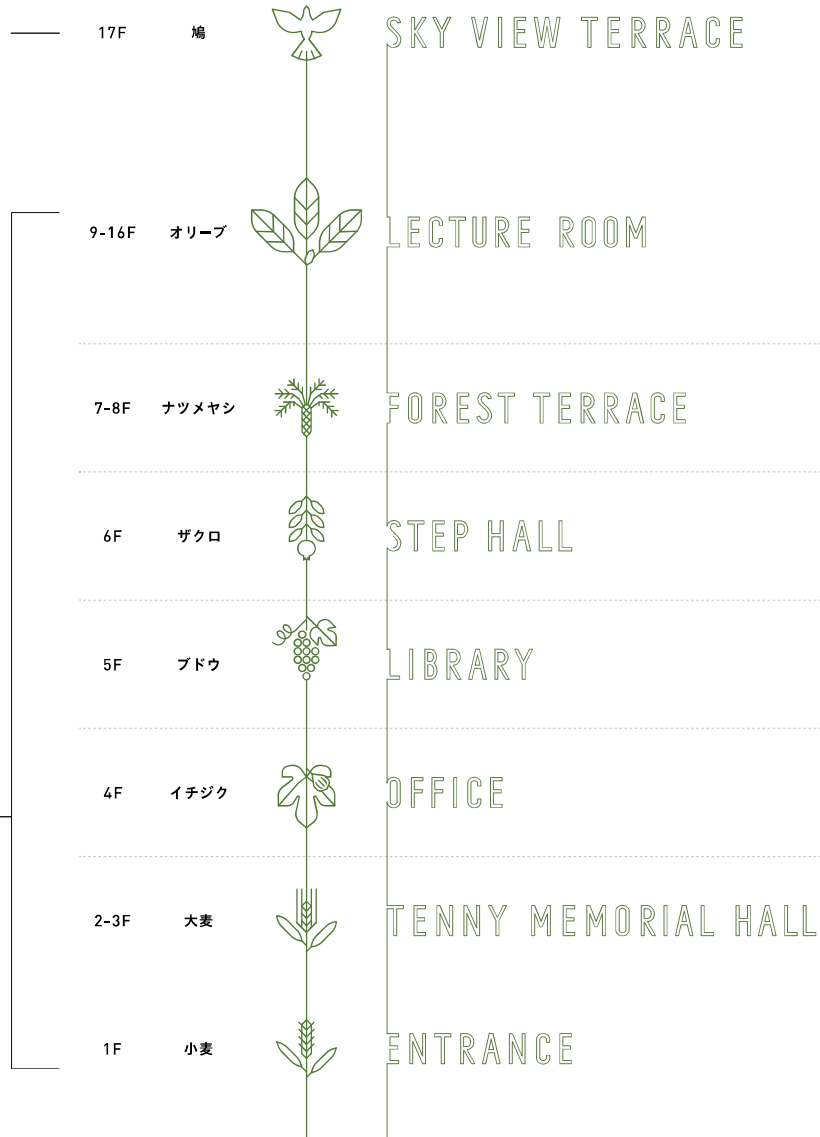
大学のシンボルであるオリーブを中心に聖書の地の七つの産物をセレクトし各エリアのシンボルを作ります。植物をモチーフにすることで学生の成長をイメージさせます。

最上階は社会に飛び立つイメージから鳩をモチーフとします。

聖書の地の七つの産物

「あなたの神、主はあなたを良い土地に導き入れようとしておられる。それは、平野にも山にも川が流れ、泉が湧き、地下水が溢れる土地、小麦、大麦、ぶどう、いちじく、ざくろが実る土地、オリーブの木と蜜のある土地である。不自由なくパンを食べることができ、何一つ欠けることのない土地であり、石は鉄を含み、山からは銅が採れる土地である。」

旧約聖書 申命記8章7-9節



「平和」を象徴する「ハト」

大学を築き上げていった学生たちが、モーセの放ったハトの様に、自分たちの「陸地」を見つけ、またこの学舎に戻ってきて欲しいという願いを込められています。

関東学院のシンボルでもあり、「平和」と「知恵」を象徴する「オリーブ」

学生たちが学ぶエリアのシンボルとしています。

「優美」と「勝利」そして、「祝福」を象徴する「ナツメヤシ」

学生たちの学舎の中のアアシス“FOREST TERRACE” 勉学の合間でのテラスでの息抜きの中で、仲間との友情を深めて欲しいという願いを込められています。

「豊穡」を象徴する「ザクロ」

新キャンパスの象徴的なプレゼンテーション施設“STEPHALL” 学生たちのプレゼンテーション等の主体的な学びが実りある物になれば、という願いを込められています。

「平和」や「繁栄」あるいは「神との契約」を象徴する「ブドウ」

大学における「知」の象徴となる“LIBRARY” 図書館の中心には、「聖書」が置かれ、学生たちが知的にも、人格的にも成長して欲しい、という願いを込められています。

「神からの期待」を表す「イチジク」

大学の「知」のリソースと接続し協働できる市民のための“OFFICE” コワーキング/マッチング・オフィスを利用するすべての人が、それぞれの取り組みの果実を得られるように、という願いが込められています。

「イエス・キリスト」自身を象徴する「麦」

2階・3階フロアは、市民に開放される600人規模の“HALL” イエスがらった大麦のパンを人々が分け与えた様に、このホールを活用して関東学院大学が市民に「知の還元」を行っていきたいという願いを込めて「大麦」をシンボルにしています。

キリスト教を建学の精神とする関東学院大学の、「ゲート(門)」となる“ENTRANCE”にふさわしいと考え、「小麦」をシンボルにしています。

横浜市民とキャンパスをつなぐエリア

小麦 = パンの原料 / 大麦 = ビールの原料
食パンとビールの、日本における発祥の地は横浜